



進路だより

令和4年度 第3号

令和4年10月27日

(木)

東京都立羽村特別支援学校

校長 外山 裕介

10/11 (火) 進路保護者学習会より

卒業生の保護者の方に聞く成人期の暮らし

- ①18歳から障害者グループホームを利用できる
- ②20歳の年金受給後は障害者手当を合わせると、グループホーム費用を毎月賄える
- ③障害特性等の問題はグループホームとのよく相談の上、どうしたら利用ができるか検討

先日の学習会には、来校者18名ほどオンラインでは37名の方にご参加いただきました。ご参加ありがとうございます。今回は、お子さんが本校を卒業され通所事業所の利用やグループホームの利用をされている保護者の方にお越しいただきお話を伺う形式にて実施しました。内容としては、お子さんの幼少期からの様子もお話いただき、親としての思いや多くの「ママ友」に助けられたといったお話もありましたが、ここでは上の3つのことを取り上げたいと思います。

まずは、①18歳から障害者グループホームを利用できるということ。今回の卒業生は22歳の頃にグループホーム利用を始められましたが、18歳から基本的には利用ができません。18歳年齢到達時に各自治体の障害認定調査によって「障害支援区分」を判定し、その後数年に1回のペースでこの障害支援区分を見直していくのですが、この頃からグループホームを利用することができます。ただ、それまでの児童期に「短期入所」を度々利用して、お泊りを経験していることでグループホームの利用に対する本人の気持ちが整理しやすい状況を作っておくことや、家族での話し合いを進めていく過程が必要だと思います。

②のグループホーム利用費用について、右下の例をご覧ください。公的な助成が1万円があるので家賃は実質40000円です。この他に食費と光熱水費、日用品費を合わせると90000円ほどとなります。家賃はアパート等の家賃相場と同様に地域によっては高くもなります。

③今回の卒業生は、グループホームを夜中に出かけてしまうという問題があります。ただ、帰る力もあります。「閉じ込め」は人権上の問題ですので、玄関の施錠はしながらも、見守りを根気強く継続していただくという支援を保護者とグループホームで確認していました。

特性上の問題をしっかりとグループホーム運営者と相談することが大切だと改めて学びました。

(進路指導主任 神 圭一郎)

ある青梅市のグループホーム

【1か月の費用】

家賃	50000円
	※公的助成10000円
光熱水費	15000円
食費(朝夕)	1日900円
日用品費	実費
合計	約90000円

高等部 1 年生 職場見学



高等部1年生は10月21日（金）の午前に7コースに分かれて見学会を実施いたしました。これから、インターンシップで一人一人の体験実習を行う前にちょっと緊張感を味わいに、また働く先輩（卒業生など）の仕事ぶりに触れることで「働く」「利用する」ことに意識をもてるという思いです。皆、真剣な表情で見学先の方のお話を聞いていました。

【見学先】

- ① 1組2組グループ・・・わーくあっぷ瑞穂（B型・生活介護）
- ② A1グループ・・・いいあさファーム（B型・生活介護）
- ③ A2グループ・・・サムライプリント（B型）
- ④ B1グループ・・・（株）サプリメントジャパン
- ⑤ B2グループ・・・トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ（株）
- ⑥ C1グループ・・・コニカミノルタウィズユー（株）
- ⑦ C2グループ・・・富士電機フロンティア（株）



富士電機フロンティアにて

高等部 2 年生

ビジネスマナー講座



9月30日（金）にビジネスマナー講座を行いました。株式会社パソナハートフル様から5名の講師が来校されてお話をいただきました。（そのうち1名は、本校卒業生であり、株式会社パソナハートフルで現在もお仕事をされている先輩社員の方です）

内容は、挨拶・身だしなみといった基本的なビジネスマナーのほかに、実習や普段の生活等で起こりうる場面を想定したロールプレイング（報告・連絡・相談の仕方やクッション言葉の使い方）など実用的なビジネスマナーも学びました。生徒たちは普段とは違う雰囲気に対し緊張しながらも意欲的に活動に参加していました。今後も活動の中で、挨拶や身だしなみ、確認を繰り返し行い、確実に身に付けていきたいと思えます。

（高2進路担当 相磯 圭祐）

コラム:「進路選択」をかんがえる ～企業就労?就労移行支援?～

「就労移行支援」を調べると、ガイドブックには以下のように書いてある事が多いです。
 “一般企業等へ就労を希望する65歳未満の障害者に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、求職活動に関する支援等を行う。”

ちなみに、本校の冊子「高等部の進路」には、以下のように書いてあります。

“企業就労を目指して訓練を行うところです。原則2年間の間に力を付けて、企業就労を目指します。平成30年度から、「就労定着支援」のサービスが始まりました。就職してから6か月は就労移行支援事業所の方が就職した会社に「定着支援」をします。就労定着支援のサービスを就労移行支援事業所が行っている場合には、その後3年間定着支援が受けられます。”

では、企業就労と就労移行の違いは何でしょうか?いくつかありますが、おそらく「雇用契約」を結び、最低賃金(令和4年10月1日から東京都は1072円/時)が保証されるのが企業就労、と答える人が多いのではないのでしょうか。ちなみに就労移行は障害者総合支援法に基づいている障害福祉サービスですので、雇用契約ではなく「利用契約」になります。なので、居住地にある就労移行支援事業所だけでなく、たとえば電車・バス等を利用して他市の就労移行支援事業所を利用することもできます。卒業時には企業就労したけど、理由があって離職。そのあと就労移行を利用したのちに再就職あるいは就労継続支援B型の事業所に行く等の卒業生もいます。長い人生の中で、「就労移行」だけでなく、「障害福祉サービス」に出会うことは卒業時の進路先が企業就労、福祉就労に問わず、誰しもが想定されます。

少し前のデータですが、全国には就労移行支援事業所の数が3471箇所(平成29年の時点)あり、東京には328箇所(平成30年の時点)あります。しかしながら、本校の学区域にある就労移行支援事業所は少ない(地域課題)です。就労移行はやめてB型のみにします、というケースも近年ではあるのが現状です。とはいえ、特徴(作業的な活動を中心、ビジネスマナーや対人関係スキル等の座学を中心、等)を出しながら運営している事業所もあります。

以下、本校の近隣で就労移行を運営している主な事業所を紹介します。

※下記以外の就労移行支援事業所も地域にはあります

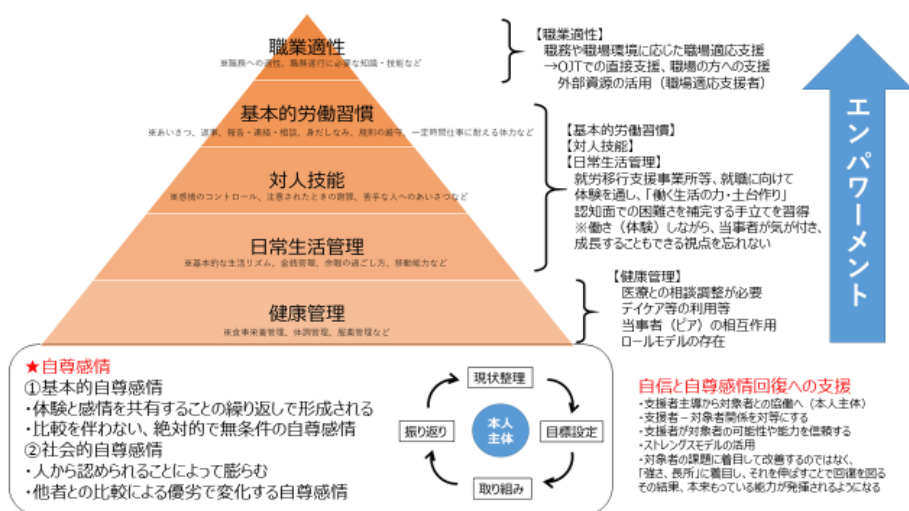
			
名称	社会福祉法人友愛学園 青梅福祉作業所	社会福祉法人そよかぜ 福祉作業所ひばり園	社会福祉法人あかつきコロニー セルフあかつき
所在地	青梅市千ヶ瀬町 3-393-4	羽村市栄町 3-3-1	武蔵村山市伊奈平 1-64-1
主な活動内容	ガス給湯器の分解、 箱折りなど	緩衝材作成、箱折り、SST など	介護用品ピッキング、SST、 喫茶、清掃など

さて、卒業時の進路選択で、すぐに「企業就労」をした方がいいのか、「就労移行」で力を付けてからの方がいいのか、悩んでいます、とよく相談を受けます。

この場合、果たしてその生徒にとって幸せなのはどちらの選択でしょうか？

「企業就労ができなかったから（仕方なく/本当は行きたくないけど）就労移行に行く」という進路選択はどうでしょうか。学校生活は有期限なのでチャンスは無限ではありません。でも就労移行で働く力をゆっくり付けてから、自己理解を深めてから、対人スキルを練習して自信を付けてから、「就労定着支援」のサービスを使いたいなど、理由はいろいろ考えられますが、もう少し先に企業就労を目指すことも、生徒が肯定的に前向きに選択できるとよいと思っています（もちろん「企業就労をすぐにしたい」という選択も応援します）

※ちなみに進路ガイダンス等でよく言われる「就労準備性のピラミッド（下図参照）」、実はこれらはハードルではありません（ピラミッドの形をしているので、〇〇ができないと企業就労できない等、誤解釈されがちですが）最近言われているのは、この職業準備性を支える土台



の土台（自尊心、自己肯定感、自己有用感）が、実は乳幼児期や学齢期、もしかすると成人期での学び直しの場面では大切になる、とされています。

進路選択をするときに、もしかすると「点」で考えながら、「線」でも考えていくとよいのかもしれない。キャリアには“アップ”も“ダウン”もありません。つまり、人の価値観や生き方、人生は多様で、正解はないし、ライフステージによって変化するということです。

With コロナの時代になり、働き方や働く意義、もっと広くいえば暮らし方や生き方が急速に変化しています。もしかすると10年後、20年後はもっと変化の激しい社会なのかもしれません。これからの人生の方がまだまだ長い生徒にとっては、だれと出会い、どこで暮らし、生きていくことが幸せなのでしょうか。進路選択はそのひとつですが、人生の大事な選択のひとつです。

（進路専任 神子 雅行）



本校ホームページ 進路特設ページのご紹介

本校ホームページの「卒業後の進路」では、高等部の進路についての冊子や地域の福祉事業所一覧、進路だよりなどを掲載しています。また進路特設ページでは、保護者の皆様にお伝えしたIDとパスワードを入力すると、企業の動画や福祉事業所の紹介動画が視聴できます。ぜひご覧ください。

障害の特性や その人に合った環境 を考えた仕事・通所先の視点も

飲食店の厨房やパン製造販売の就労継続B型事業所の厨房はだいたい狭いです。お客様のスペースを広くとる必要もあるでしょう。やりたいことが調理周辺の仕事だとして、「自分（お子さん）は狭い環境だとどんな心理的な影響を受けるでしょうか。私はかなり苦手です。自分自身の身体の大きさもあるでしょうか。他の方とすれ違う際の動きや、「冷蔵庫を開けたいのだけど・・・」といった目に気づけると良いのでしょうか・・・

やりたいことは体験してみることが大切です。ただやってみて、見学してみて「自分」を基軸にもう一度考えることも必要です。



室内環境では、「音」「視線」「形」「におい」様々な要因が居心地を難しくさせます。数年前に、講演会でニキ・リンコ氏がお話をされていましたが、発達障害の特性のある人にとって、中でも最も感覚過敏の部分で生きづらいということのようです。室内にはエアコンの運転音（健常の人は気にならない）、あらゆる物の形（怖いと感じる物も多いそう）など影響されやすいものがたくさんあります。かといって、外で農業といっても「虫」「野菜」が嫌いだといけませんが、室内よりは気分が良いという場合には、「外」の環境も良いことも多いです。

「やりたいこと」「できること」「求められること」の中できつと働いたり心地よく過ごしたりを考えていくわけですが、「環境」も大切なことの一つです。

（進路指導主任 神 圭一郎）



【次回】

12/16(木)発行予定
・高1インターンシップ
・高2現場実習

など